

ギニア月報(2020年11月)

主な出来事

【内政】

- 1日、治安・市民保護省は、警察が武器を携帯可能となる「特殊保護介入ユニット」を設置。
- 7日、憲法裁判所は、野党による異議申し立てを却下し、現職のコンデ大統領の再選が確定。
- 7日、ディアロ UFDG 党首は、コンデ大統領再選に関する CENI 及び憲法裁判所判決受け入れを拒否し、勝者は自身である旨の声明を発出。治安当局は、同氏の自宅を包囲し、外部からのアクセスを遮断。
- 11日、UFDG バー副党首、幹部党員のオスマン・ディアロ氏及びバルデ氏、NVC ソロポンギ党首の計4人が逮捕された。

【外政】

- 8－10日、コンデ大統領の再選確定を受け、アフリカ諸国や中・露・土等が祝意を表明。
- 12日、ギニアが国連の「G77＋中国」グループの議長国に就任することが決定。

【経済】

- 12日、ギニア政府は Winning Consortium Simandou 社(注:SMB-Winning 社系列)と鉄道舗設及びマカタン港建設に関する協定を締結。

1 内政

- ・ 1日、野党 UFDG 党、PACT 党、NGR 党及び PADES 党は、憲法裁判所に対し、独立選挙委員会(CENI)による暫定選挙結果に関する訴えを提出した。
- ・ 1日、治安・市民保護省は、警察が武器を携帯可能となる「特殊保護介入ユニット」を設置。
- ・ 3日、野党関係者は、選挙後の暴動により、10月21日までに、3歳と6歳の子どもを含む46名が死亡したと発表した。なお、政府の発表は21名。
- ・ 7日、憲法裁判所は、CENI が10月24日に発表した大統領選挙の暫定投票結果に対する4野党による異議申し立てを却下し、得票率59.50%を以て現職のコンデ大統領の当選を正式に決定する旨の判決を下した。
- ・ 7日、ディアロ UFDG 党首は、コンデ大統領再選に関する CENI 及び憲法裁判所判決受け入れを拒否し、勝者は自身である旨の声明を発出し、経済活動の停止(Ville morte)を呼びかけた。9日にはコナクリ市内の一部地区において住民による道路封鎖、治安当局との小競り合いが発生した。7日より、治安当局はディアロ党首の自宅を包囲し、外部からのアクセスを遮断した。
- ・ 11日、警察はバー副党首等 UFDG 関係者を逮捕した。
- ・ 18日、国民議会は、2021年初期財務諸表案を可決した。
- ・ 18日、トゥーレ UFR 党首は、10月15日以降押収されていた自身のパスポートを回収し、コート

ジボワールを訪問した。

2 外政

- ・ 8日－10日、コンデ大統領の再選確定を受け、アフリカ諸国や中・露・土等が祝意を表明した。
- ・ 12日、ギニアが国連の「G77＋中国」の議長国に就任することが決定された(任期1年)。

3 経済(経済協力含む)

- ・ 5日、SMB Winning(注:2014年に創設されたシンガポール企業 Winning Shipping Ltd、ギニアで運輸ロジスティックスを営む UMS 社および中国企業 Shandong Weigiao によるコンソーシアム。ギニア政府が10%株を保有しており、同一員。)によるダピロン(Dapilon)＝サントウ(Santou)鉱床間の鉄道 135 キロ敷設用の資材が到着した。
- ・ 10日、森林ギニア地方ゾゴタ(Zogota)の住民は、ブラジル鉱山企業 VALE 社に対し抗議デモを行い、治安当局との衝突により多数の死傷者が発生した。ECOWAS 裁判所は、軍による鎮圧を非難した。
- ・ 12日、ギニア政府は Winning Consortium Simandou 社(注:SMB-Winning 社系列)と鉄道舗設及びマカタン港建設に関する協定を締結。

(了)